

2007年度森泰吉郎記念研究振興資金 研究者育成費 修士課程

「古民家の移築・転用による「100年熟成住宅」の開発と建物廃棄CO2の削減効果検証」

政策・メディア研究科 修士課程2年 環境デザインガバナンス 三宅理一研究室

菊田大典

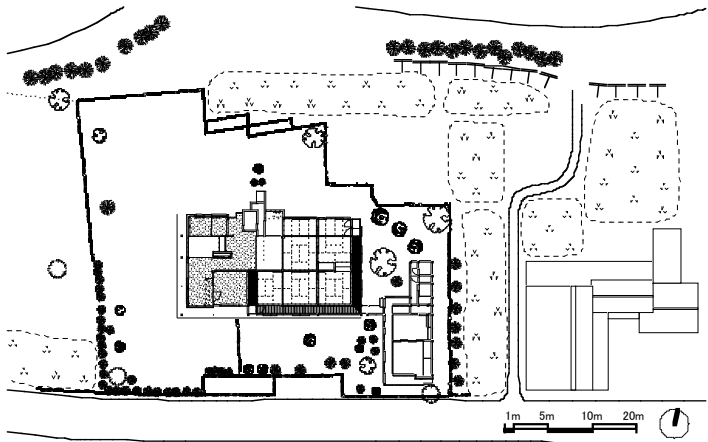
■ (1) 活動の日程と内容

年 月 日	活 動 内 容
2007 07月28日 ー 08月05日	島根県飯石郡飯南町にて、空き家になっている古民家の視察、実測調査を行った。古民家の実測を行う事で、100年熟成住宅に利用する基本的なデータ収集をすることができた。また、持ち主にヒアリング調査を行い、民家の状態や解体して売る意思があるのかなどを伺った。
2007 08月17日 ー 08月25日	8月18日と19日に島根県飯石郡飯南町にて、解体実験を行い、古民家の解体における留意点を抽出した。また飯南町教育委員会とともに、18日には解体物件の近くにおいて前夜祭を行い、多くの地元住民に参加いただいた。古民家が今後地元の地域資源となる意識を持ってもらった。
2007 08月30日	また、上記のような調査を継続して行った。 日本建築学会大会（福岡）にて「地域資源としての木造建築のリロケーションに関する基礎的研究その四—移築における蔵の可能性—」の発表
2007 08月31日 ー 09月28日	ルーマニア、モルドヴァ地方における修道院、教会実測調査。同研究室のルーマニア研究の調査隊に参加。木造という視点で、主に聖堂の小屋組を実測調査し、日本建築の小屋組との比較研究を行った。
2007 12月03日 ー 12月04日	島根県飯南町、大田市へヒアリング調査、資料収集 ヒアリング対象：古民家に関わる地元設計者、空き家になった古民家を管理されている方、飯南町教育委員会の方
2008 02月01日	修士論文「木造建築のリロケーションにおける生産・設計技術に関する研究」発表

■（２）活動の日程と内容

1、島根県での調査

NPO 団体日本古民家研究会では、島根県大田市での調査を引き続き行いながら、フィールドを広げ、松江市や飯石郡飯南町などでも古民家の調査を開始した。島根県全体では、18万棟の空き家があり、そのうち3万棟が優良な古民家であり、15万棟が手を加えれば利用できるものである。そこで今回初めて、本活動団体は、飯南町の教育委員会の協力を得て、島根県飯石郡飯南町で古民家の調査、データベースづくりを行った。



物件は、空き家であることと所有者との連絡がとれ、調査の許可がとれるものを飯南町教育委員会の方にピックアップしてもらい、調査を行った。調査は、合計12件行い、物件の状態や持ち主などに今後の使用状況や築年数をヒアリングしていくものと建物の実測や周辺環境の調査を行った。現在、その実測調査から図面化を行っている。(右図例)

2、解体ワークショップについて

8月18日、19日に飯南町の銀山街道沿いの古建築修復のための解体を行った。18日は、前夜祭として飯南町の地域の人々と地域の神楽などを行い、地域コミュニティの活性化とともに、古民家が今後、移築再生、現地再生どちらにおいても地域の資源である意識を高めることに役立ったことだろう。また解体では、古民家解体における技術や解体の手順を見て取る事ができた。



3、「100年熟成住宅」を使った集合体の構想

「100年熟成住宅」の開発では、古民家や古材を移築・転用した住宅開発を行うにあたって、個々の対応では意味がなく、もっとマクロな開発が必要であると考えた。そこで100年熟成住宅に付加価値を付ける事を考えた。古民家や古材の移築・転用はエコでありサステナブルであるが、その先を行く価値を付けなくては一般化しないのではないかと考え、農業一体化型の住まいを検討し、「100年熟成住宅」を集合させた古民家で作る街づくりの構想へと至っている。またハードとしての「100年熟成住宅」のスタディも行った。また、環境一体型の建築や都市はco2削減に繋がる。